

# 「八戸赤十字病院紀要」投稿規定並びに執筆規定

## 投稿規定

- 1) 本誌は年1回発行を原則とし、投稿者は八戸赤十字病院職員及び関係者とする。
- 2) 本誌は、総説、原著（研究論文）、症例報告、報告（診療向上の取組み等）、集談会記録、各科の業績（学会発表・論文）、その他編集委員会で認めたものを掲載する。
- 3) 原稿は他誌等に掲載されていない未発表のもので、和文に限る。
- 4) 研究倫理：関連法令・指針（ヘルシンキ宣言、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針等）を遵守し、原著は倫理委員会の承認を事前に得る。
- 5) 個人情報保護：個人の特定が可能な情報（氏名、イニシャル、患者ID、住所、紹介施設名、検査/検体番号、画像内文字情報など）は記載しない。希少疾患などで個人情報の特定が可能な場合は、事前に本人の同意を得、その旨を本文に明記する。
- 6) オーサーシップ：責任著者および共著者は、投稿内容や執筆に直接貢献し、かつ最終原稿を承認した者のみとする。それ以外の者は謝辞に記載する。
- 7) 利益相反等：内容に直接関連のある利益相反の有無と内容を記載する。外的資金を用いた場合は事業名や研究番号等を謝辞に記載する。
- 8) 著作権：掲載論文等の著作権は八戸赤十字病院に帰属し、同院が出版/電子出版/複製等に関する権利を有する。著者が他者に著作権が帰属する資料を引用・転載する場合は、著作権者の許諾を得たうえで、出典を明記する。
- 9) 原稿は原本1部を電子媒体またはメール添付で提出する。
- 10) 原稿は査読を行い、原稿の採否、掲載順序等は編集委員会で決定する。
- 11) 査読結果や編集方針に従い原稿の加筆修正等を要請することがある。また編集委員会の責任において、字句の修正をすることがある。
- 12) 責任著者には、掲載誌1部とPDF1部を贈呈する。

## 執筆規定

- 1) 原稿の形式
  - a. Microsoft Word を用い、11~12 ポイント・ダブルスペース・左揃えで記載する。英数字は半角を用いる。機種依存文字は使用しない。
  - b. 構成は、題名、所属、著者、要旨（500字以内）、Key words（5語以内）、本文、文献、利益相反、謝辞、図の説明、表の順とする。原稿には通し頁番号をふる。
  - c. 総説、原著、報告は16,000字以内、症例報告は8,000字以内を原則とする。半角英数字は1/2字、図表は400字換算とする。
  - d. 本文の小見出しあは、原著では、I. はじめに、II. 対象と方法、III. 結果、IV. 考察、V. 結語と

- し、症例報告では、I. はじめに、II. 症例、III. 考察、IV. 結語とする。総説と報告では、内容に応じて適宜設定する。
- e. 度量衡単位は原則 SI 単位を用いる。
  - f. 略語を用いる場合は、初出時にスペルアウトする。  
例) 急性呼吸窮迫症候群 (acute respiratory distress syndrome, ARDS)
  - g. 外国人名ならびに適切な和名のない用語については原語を用いる。
  - h. 原著では、倫理委員会承認（承認番号）やインフォームドコンセント取得等を明記する。
  - i. 図は JPG または TIFF 形式を原則とし、300dpi 以上（または一辺 1,000 ピクセル以上）の鮮明なものとする。PPT 形式や PDF 形式でも受け付ける。

## 2) 引用文献

主要なものに限る。原著は 30 編以内、症例報告は 15 編以内、報告は 5 編以内を原則とする。総説は特に制限を定めない。以下の形式を遵守し、引用順に記載する。

文献表記はバンクーバー形式とし、著者は 3 名までを記載し、超える場合は「ほか」「et al.」とする。誌名略記は医学中央雑誌および PubMed に準ずる。電子ジャーナルでは DOI を、ウェブページではページ名、サイト名、URL、閲覧日を記載する。

### (雑誌)

1. 松田康雄、道清勉、新谷英男、ほか. 超音波ガイド下生検一合併症防止と成績一. 日消外会誌 1984;17:595-600.
2. Chew EY, Klein ML, Murphy RP, et al. Effects of aspirin on vitreous/preretinal hemorrhage in patients with diabetes mellitus. Arch Ophthalmol 1995; 113:52-55.
3. Sasou S. The perifollicular zone of the spleen as a distributor and filter of blood components. J Clin Exp Hematop 2021; 61:58-60. doi: 10.3960/jslrt.20038.

### (単行本)

4. 延吉正清. 新冠動脈造影法. 医学書院, 東京, 1990, 132-145.
  5. 吉田操. 表層拡大型食道表在癌. 吉田操, 他 (編) 食道表在癌—画像診断と病理. 医学書院, 東京, 1993, 190-192.
  6. Biggers JD, Whitten WK, Whittingham DG. The culture of mouse embryos in vitro. In: Daniel JC, et al. (Eds) Methods in Mammalian Embryology. Freeman Publications, San Francisco, 1991, 18-116.
- (ウェブサイト)
7. 病院の取り組み 脳卒中センター. 【公式】八戸赤十字病院, <https://www.hachinohe.jrc.or.jp/attemp/stroke-center> (2025/7/7).

(2026 年 1 月改定)